

⑩ 持続化に向けた茶園再生と輸出に係る環境整備の取組 【株式会社 やまま満寿多園（御前崎市）】

輸出

生産性向上

■活用した事業

「令和5年度～6年度 畑作等促進整備事業」を活用して小区画の圃場を整備して大区画化し、乗用機械で管理しやすい圃場を実現

「令和2年度補正 農産物輸出拡大施設整備事業」を活用した茶粉碎機の導入

「令和2年度補正 食品産業の輸出向けHACCP等対応施設整備緊急対策事業」を活用した茶粉碎施設の改修整備

■経営の概況

生産、製造、販売の一貫経営。栽培面積は16ha。輸出事業を平成3年から開始。主にリーフ茶を台湾、東南アジア、中近東、アメリカ、ドイツ、フランス等20か国以上に輸出している。

■取組内容

・基盤整備

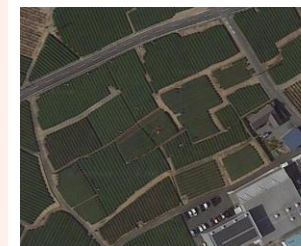
2022年に小区画で荒廃農地率が3割以上あった茶園を1.1ha大規模区画に御前崎市がブランド化を進めている「つゆひかり」へ「やぶきた」から改植。

施工前は畝方向が異なる小圃場が不規則に並び、圃場間の石積や道路と圃場間の段差が農作業機械の乗り入れを困難にし、荒廃農地増加の一因となっていた。複数の所有者の合意を取り付け、農地バンクを通して農地を一括借り受けた後、基盤整備を実施した。施工後の圃場は大区画化され暗渠排水、スプリンクラー、防霜ファンが整備された圃場に再生した。

・輸出事業

衛生管理や危機管理に関する意識が高い海外の取引先の要望を踏まえて、食品の安全性を確保する国際認証（FS S C22000）を取得。粉末茶の需要増加に対応するため支援事業を活用し、既存施設の改修と粉碎機械の整備を同時に行って自ら粉碎加工を行う体制を整備。

相手国のニーズに対応できる施設として輸出拡大を図る。



整備前の圃場



整備後の圃場



スプリンクラー



改植直後

<写真：静岡県>



現在の圃場